



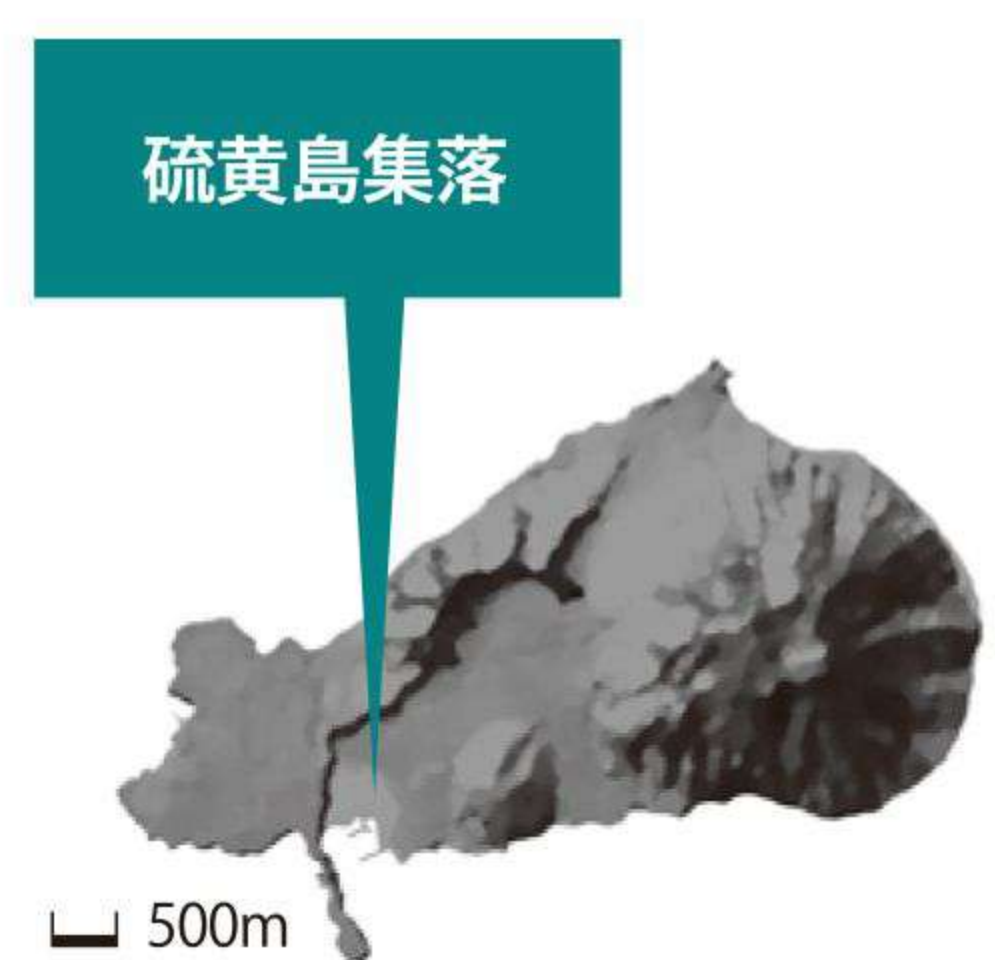
三島村・鬼界カルデラジオパーク



硫黄島

薩摩硫黄島のメンドン
平成二十九年に国の重要
無形民俗文化財、平成三
〇年にユネスコの無形文化
遺産に登録された。

通称「メン」は、硫黄島八朔
太鼓踊りの合間に登場す
る鬼をかたどった仮面。頭
には島に自生するチグサ
(ミスギ)や笹などをのせ
る。メン役は蓑と手袋で身
を隠して正体不明にする。
手には「スッペン木(ヤブニツ
ケイ)」の枝をもち見物人
をたたいて厄払いする。そ
の後「天下御免」のメンは
夜更けまで集落を徘徊し
家に押し入る。かつてその
所業は激しく女性を恐れ
させた。写真は踊りの終
盤、島の悪霊を集めて海へ
捨てる「タタキ出し」へ向か
う途中。



いあいさつ

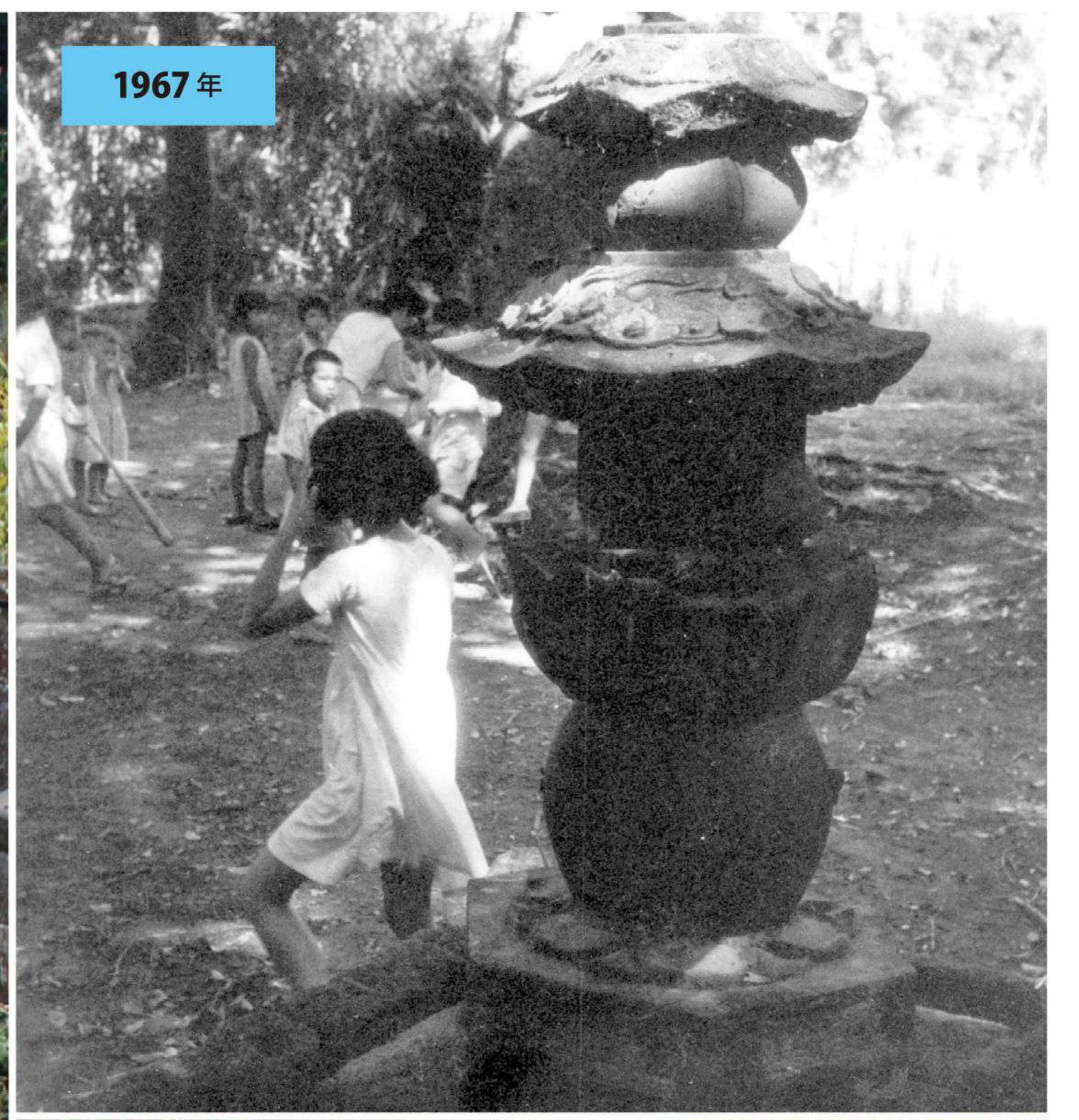
今年三月に地域おこし協力隊の
任期が終了します。私が隊員の立場
でカレンダーを制作する役割は終
了しますので、失礼ながらこの場を
借りて挨拶申し上げます。

地区の皆様三年間ご協力頂きあり
がとうございました。もしこのカレ
ンダーが家族の会話に話題を提供
できたならば少しはお役にたてた
と思います。昔話が多いですが、これは
懐古趣味でなく、村の慣習の記録と
遺産の継承を意図したためです。三
島村の文化は、環境の厳しい海洋島
に生きた村民達の膨大な知の蓄積
です。永い時間のふるいにかけて残っ
た財産です。これを失うのは惜しく、
まずは記録を試みました。ここ数年
社会では現代の社会体制を反省す
る動きがあります。この反省の後に
三島村で見直されるものは多いで
しょう。それは祭りのような共同体
の体験も含めてです。ですから、もし
子供達がここに紹介した話を自分
達の未来の話として受けとめてく
れたら、とても嬉しく思います。

以上、皆様大変お世話になりました。
硫黄島地区地域おこし協力隊
棚次理

2020

鹿児島県 三島村 カレンダー
- それぞれの暮らし -



聖大明神社

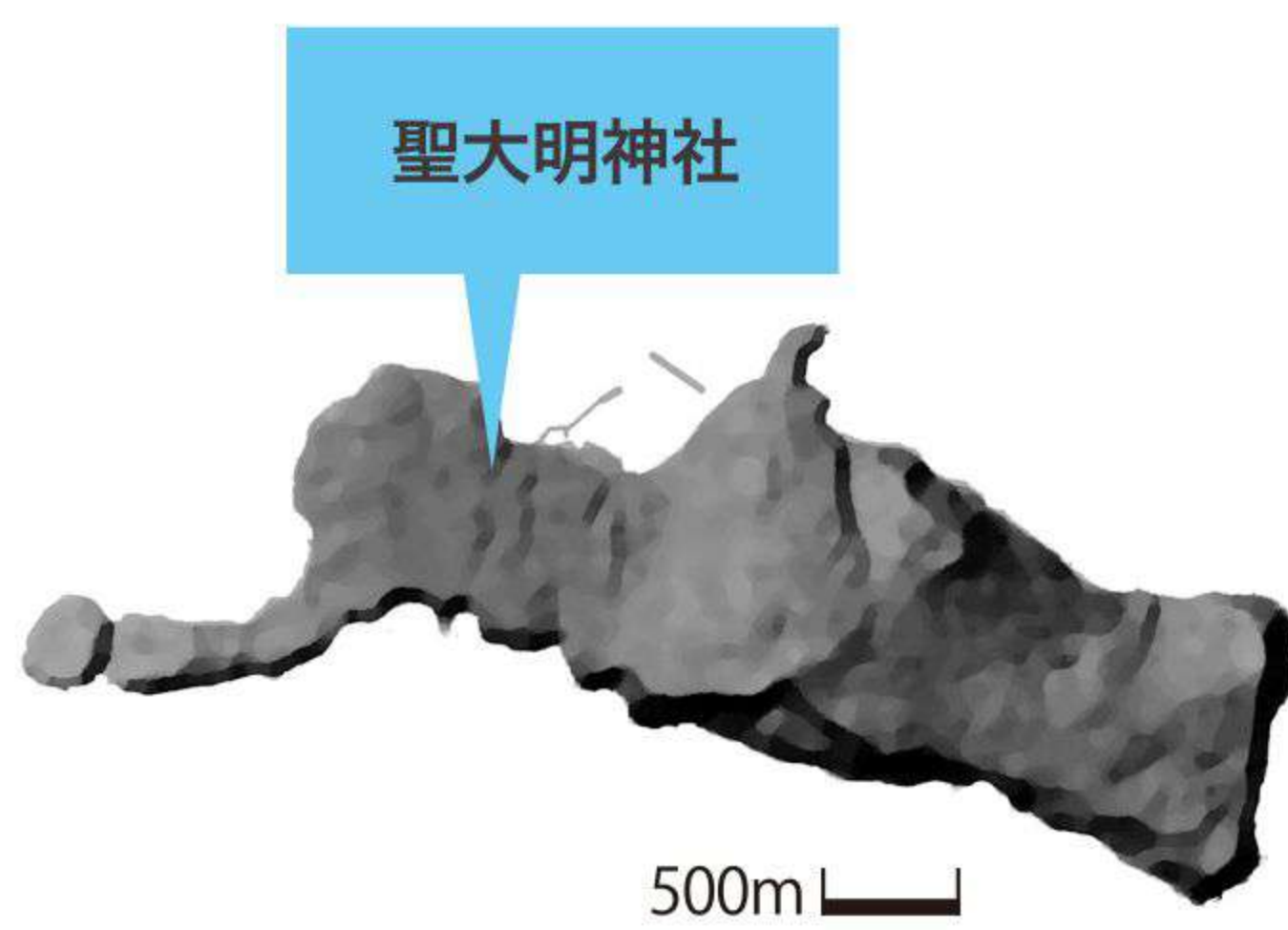
竹島の伝説に、大昔、西(東風泊あたり)の溜池が陥没し、そこに龍神が現れて石になったという話がある。この天変地異の際に神のお告げがあり神社は建立されたという。祭神は神武天皇(初代天皇)の祖父である『彦火火出見尊(ヒコホデミノミコト)』と、その妻で海神の娘『豊玉姫(トヨタマヒメ)』と伝えられている。

また、この神社では太鼓踊りや馬方踊りが奉納され、竹島の特徴をよく表す。境内の唐猫や石灯籠は七三〇年前のアカホヤ噴火でできた溶結凝灰岩を彫刻したものの。江戸時代の石工『平山登右衛門』による。墓場の五輪塔(写真右下)など竹島にはこの石工の名作が点在する。なお二〇〇九年より照国神社の神官が例祭を行う。

思い出話

「前の神官が担い手の足りない三島村の神事に手を貸したことが照国神社との縁です。島津公の血筋の方で島津に縁のある方々の困難を無視できなかったのだと思います。その行いに今に残る島津の慈愛のようなものを感じています。」
鹿児島市五〇代男性

1



竹島

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---------------|------------------------------|---------------|--------------------------|---------------|---------------|---------------|
| 29 | 30 | 31 | 1 元日 旧 12/7 | 2 旧 12/8 | 3 旧 12/9 | 4 旧 12/10 |
| 5 旧 12/11 | 6 旧 12/12 | 7 旧 12/13 | 8 旧 12/14 | 9 旧 12/15 | 10 旧 12/16 | 11 旧 12/17 |
| 12 旧 12/18 | 13 成人の日 旧 12/19 | 14 旧 12/20 | 15 旧 12/21 | 16 旧 12/22 | 17 旧 12/23 | 18 旧 12/24 |
| 19 旧 12/25 | 20 旧 12/26 | 21 旧 12/27 | 22 旧 12/28 | 23 旧 12/29 | 24 旧 12/30 | 25 旧 1/1 |
| 26 旧 1/2 | 27 旧 1/3 | 28 旧 1/4 | 29 旧 1/5 | 30 旧 1/6 | 31 旧 1/7 | 1 |



大里
センノイリ団子
 さつま芋の澱粉と蒸したさつま芋を練って揚げた団子。芋の澱粉は『セン』と呼ぶ。センの作り方は①芋をおろして布でこす②こした汁を水に浸してできる白い沈殿物を丸く固めて乾かす。

【作り方】
 ①『セン』と蒸して練ったさつま芋を混ぜる。水でほどよい硬さにする。味付は塩と砂糖。好みでニラなどを入れる②形は扁平。適当な大きさにして揚げる③タネが浮いたらうら返す。火が通ったら完成

味付の塩は加減が難しい。少し多めに入れるのがコツ。砂糖は新しい芋で作るときに加える。揚げ油に椿油を加えると香りが良い。味はほどよい塩味と甘味。もっちりした食感。

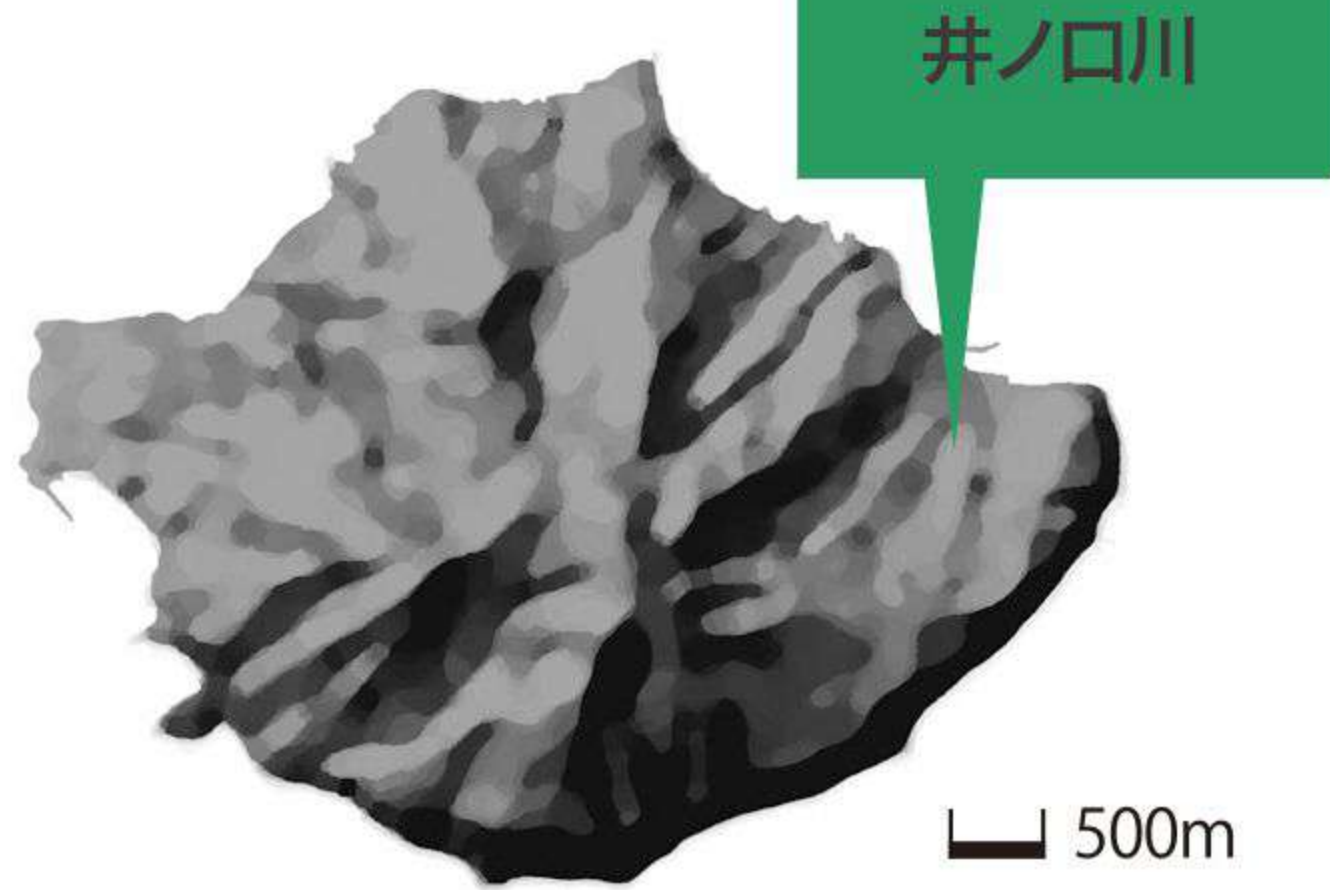
思い出話
 「さつま芋の澱粉は本土でも買えますが、私は地区の人にもらいます。団子づくりは目分量。親たちのやり方を見よう見まねで覚えました。主人が好きで、ご飯が足りないうちに団子を出すと喜んで食べてくれます。」

大里地区八〇代女性

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|-----------------|---------------|------------------|--------|--------|--------|--------|
| 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 1 |
| 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 旧 1/9 | 旧 1/10 | 旧 1/11 | 旧 1/12 | 旧 1/13 | 旧 1/14 | 旧 1/15 |
| 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| 旧 1/16 | 旧 1/17 | 建国記念の日 旧 1/18 | 旧 1/19 | 旧 1/20 | 旧 1/21 | 旧 1/22 |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| 旧 1/23 | 旧 1/24 | 旧 1/25 | 旧 1/26 | 旧 1/27 | 旧 1/28 | 旧 1/29 |
| 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| 天皇誕生日 旧 1/30 | 振替休日 旧 2/1 | 旧 2/2 | 旧 2/3 | 旧 2/4 | 旧 2/5 | 旧 2/6 |



3



大里地区六〇代男性

「夏休みに子供を誘ってウナギ獲りをしました。自然に慣れさせるためです。自然と遊ぶこの場所での厳しさを知らなければケガをします。いまや私の子らは慣れてウナギもさばります。」

思い出話

かつて大里には尾の青いニホントカゲもいて餌にしましたが今は見かけない。地区には種子島から連れてきたネズミ捕り用のイタチが食い尽くしたのでは、という話がある。

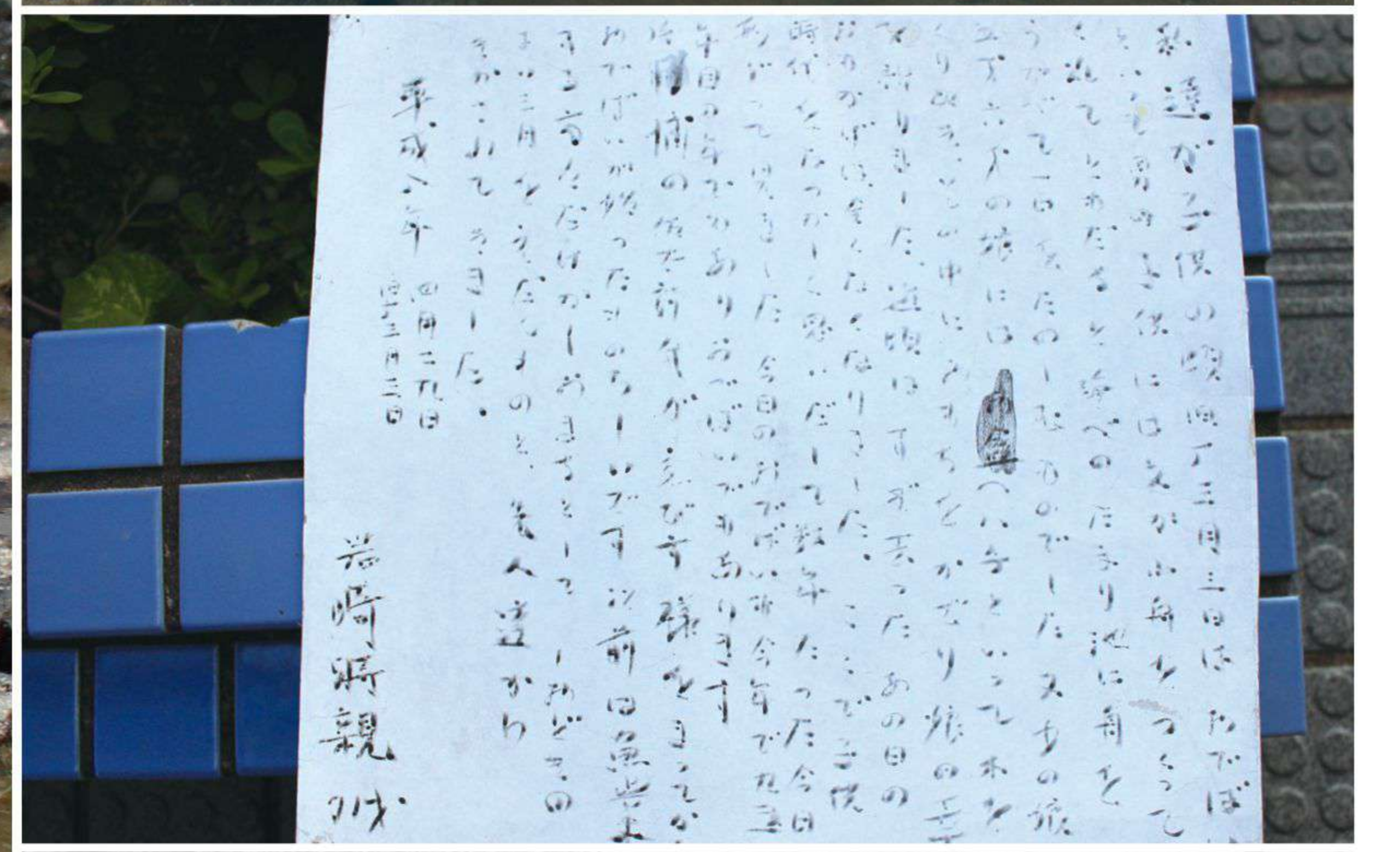
ウナギは夕方に罾をしかけて翌朝に獲る。葉がついた竹の枝に糸と針をつける。餌はヘリグロヒメトカゲ（ツルツルトカゲ）。罾を澄んだ川の溜まりに置く。餌は水の中に竹は石の上。かかると竹は水側へ動いて目印になる。網にすばやく入れて捕獲する。

ウナギと呼ぶがオオウナギとこのこと。昔のまだら模様や大ききから大里にはオオウナギの若い個体がいるようだ。この種は体長二mにもなる。戦後ある教師が食べたことでウナギ獲りが定着する。それまでウナギは神の遣いとして獲られず、溜まりにたくさんいた。

ウナギ獲り

大里

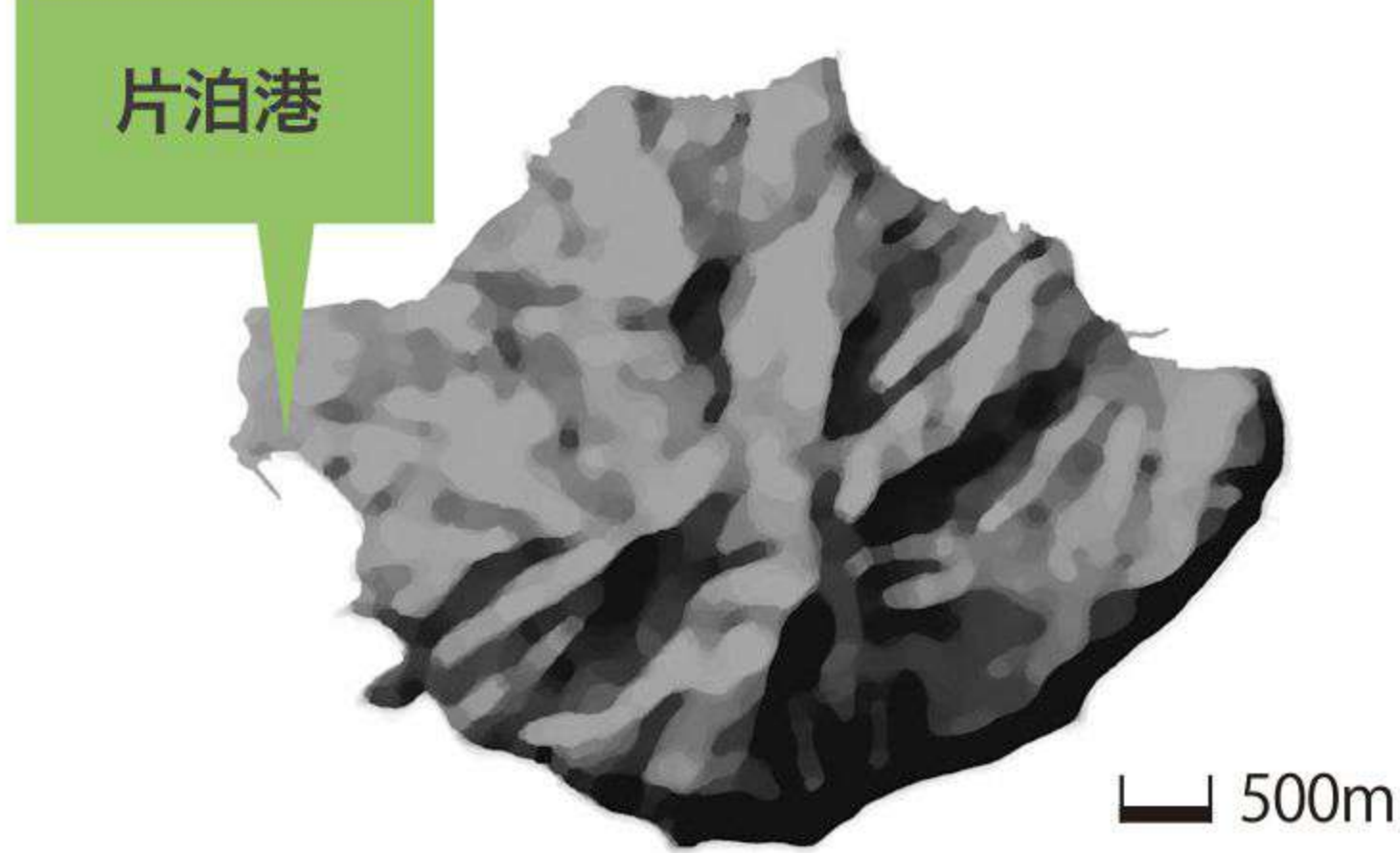
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---------------------|-----------------------------|-----------------------------|---------------------|---------------------|-----------------------------|---------------------|
| 1 旧 2/7 | 2 旧 2/8 | 3 旧 2/9 ● 上弦 | 4 旧 2/10 | 5 旧 2/11 | 6 旧 2/12 | 7 旧 2/13 |
| 8 旧 2/14 | 9 旧 2/15 | 10 旧 2/16 ○ 満月 | 11 旧 2/17 | 12 旧 2/18 | 13 旧 2/19 | 14 旧 2/20 |
| 15 旧 2/21 | 16 旧 2/22 ● 下弦 | 17 旧 2/23 | 18 旧 2/24 | 19 旧 2/25 | 20 旧 2/26 春分の日 | 21 旧 2/27 |
| 22 旧 2/28 | 23 旧 2/29 | 24 旧 3/1 ● 新月 | 25 旧 3/2 | 26 旧 3/3 | 27 旧 3/4 | 28 旧 3/5 |
| 29 旧 3/6 | 30 旧 3/7 | 31 旧 3/8 | 1 | 2 | 3 | 4 |



2019年

1967年

4



片泊地区六〇代男性

「舟は軽いタラの木で、帆は紙です。ノートの表紙が帆によく、やぶいて使つては親に叱られていました。舟ができたら面白くて行事を待たずにひたすら遊んでいました。」

思い出話

【写真左】区長の山口正人さんに舟あそびを実演してもらった。舟はそよ風で音もなく走るので大人も夢中になる。子供たちに伝えたい遊びである。

旧暦三月節句の日、片泊の男の子は磯の水たまりに舟を浮かべて遊んだ。【写真右中】片泊の古老（故）岩崎時親さんの記録によると、この行事を『おでばい』と呼んだこと。女の子はハチという木をくり抜いた盆に餅を飾ったこと。舟をつくるのは父親（『判読困難』）だったこと。などが記されている。ただし現在六〇歳前後の人たちの時代には、舟づくりは船大工や器用な大人に頼んだという。また、この古老の資料では『おでばい』は一九〇一年に始まったという初見の話もあり、あらためて調査の必要がある。

片泊

舟あそび

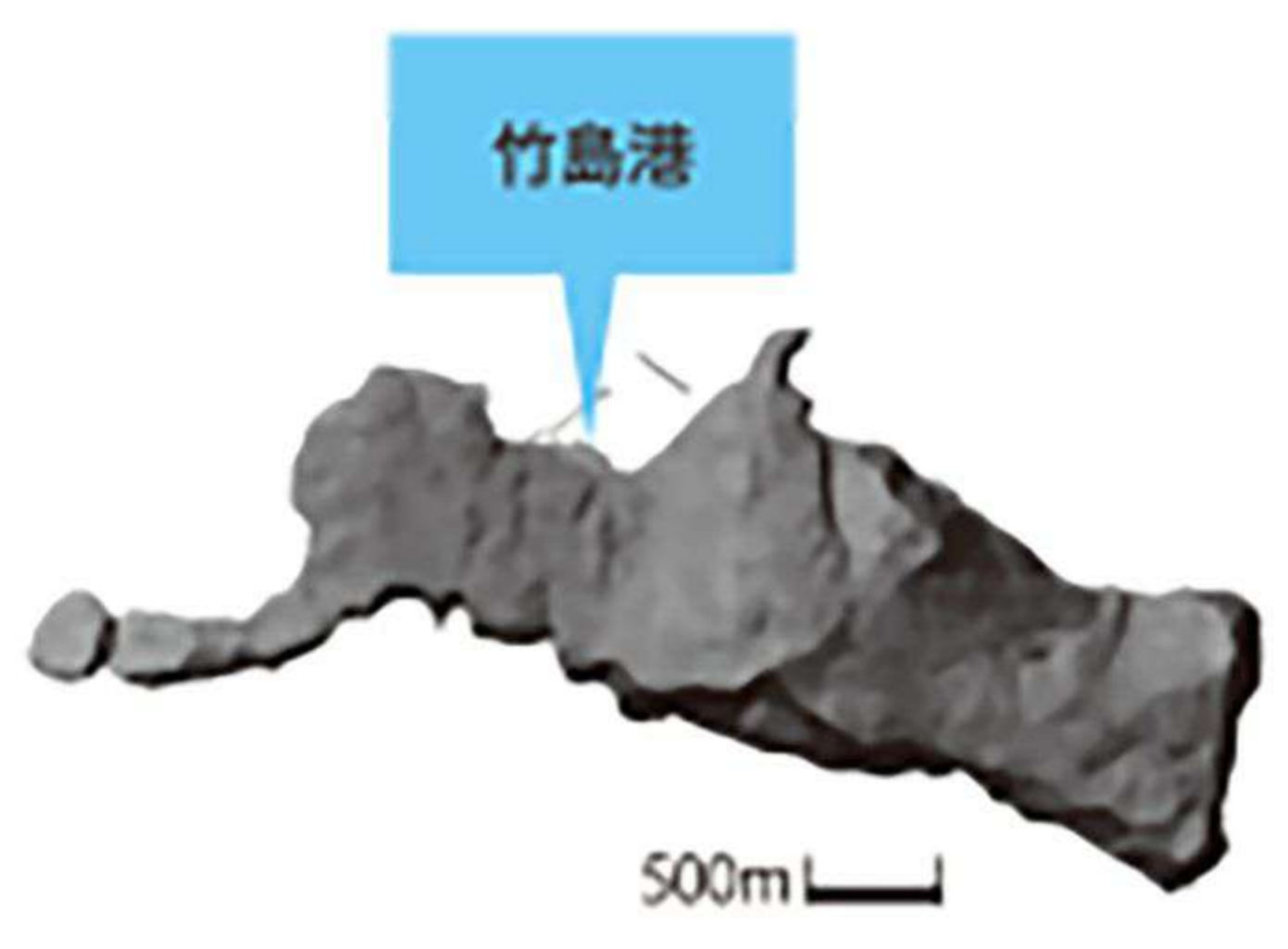
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|--------|--------|--------|---------------|--------|--------|--------|
| 29 | 30 | 31 | 1 ●上弦 | 2 | 3 | 4 |
| | | | 旧 3/9 | 旧 3/10 | 旧 3/11 | 旧 3/12 |
| 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
| 旧 3/13 | 旧 3/14 | 旧 3/15 | 旧 3/16 | 旧 3/17 | 旧 3/18 | 旧 3/19 |
| 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 |
| 旧 3/20 | 旧 3/21 | 旧 3/22 | 旧 3/23 | 旧 3/24 | 旧 3/25 | 旧 3/26 |
| 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |
| 旧 3/27 | 旧 3/28 | 旧 3/29 | 旧 3/30 | 旧 4/1 | 旧 4/2 | 旧 4/3 |
| 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 1 | 2 |
| 旧 4/4 | 旧 4/5 | 旧 4/6 | 旧 4/7 昭和の日 | 旧 4/8 | | |



2015年

2019年

5



竹島

マキノ葉の団子

月桃(ゲットウ)はショウガ科の多年草。熱帯から亜熱帯アジアに分布し、日本では沖縄県から九州南部に分布。竹島では「サネン」「マキノ葉」黒島では「サニン」と呼ばれる。香りと抗菌作用があり料理に使われる。集落内の月桃は所々刈られて家庭で使った様子が窺える。昨年はかなぶんの大量発生で葉が食い荒らされてしまったという。同じショウガ科のクマタケランも自生しており、よく似ているが香りが弱く餅につくので使わない。

【作り方】

- ① 米粉を水で練る
- ② 砂糖で味付けして耳たぶくらいの固さになったら、適当な大きさにしてマキノ葉で包む
- ③ セイロに置いて蒸す。このとき下に葉を敷くと香りがよくなる

思い出話

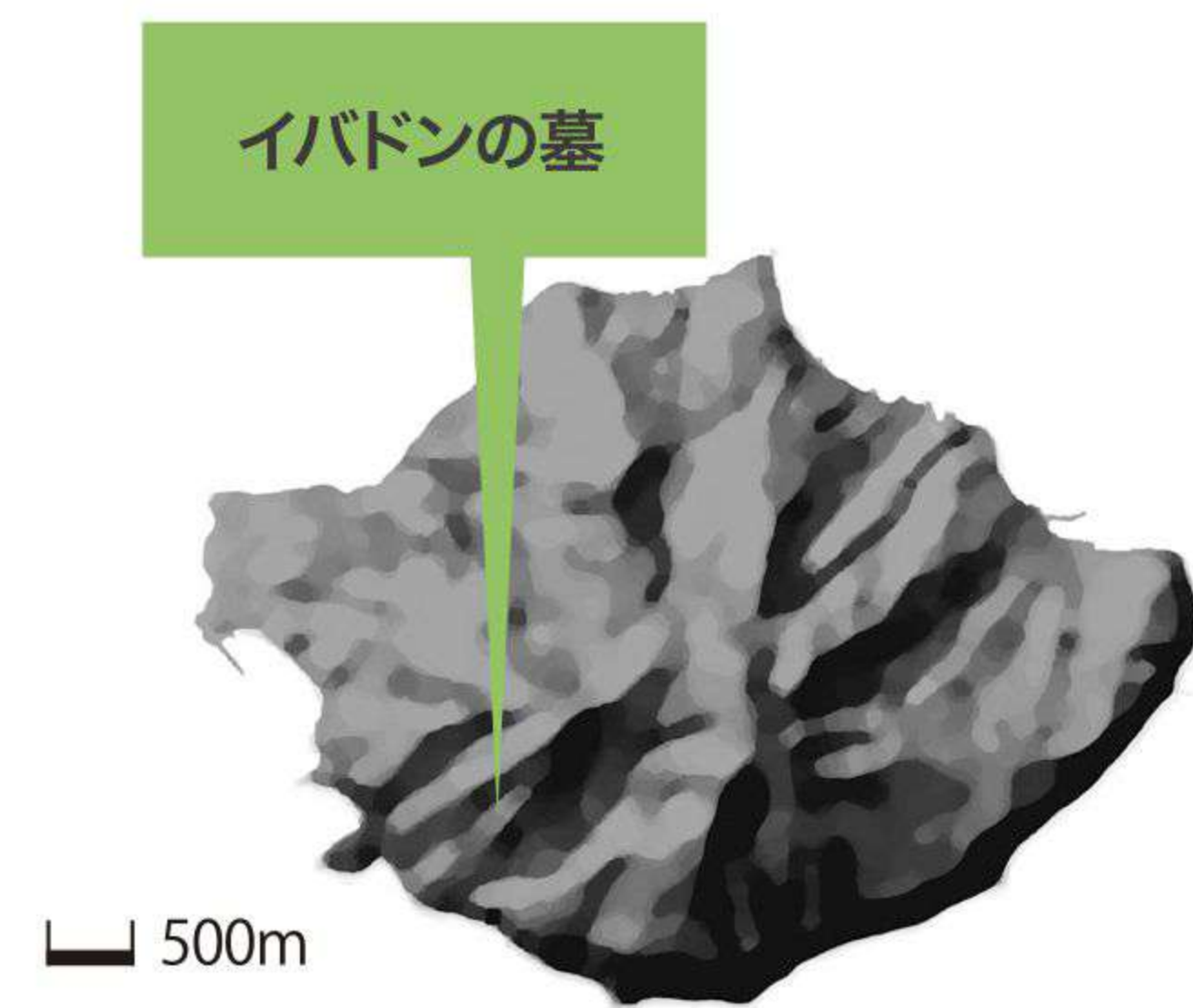
「今はお団子を紐でくくつてますが、前はかやでしてました。昔はお盆になれば、二〇〇程のマキン団子をつくってお墓にお供えていました。ご先祖様が団子を杖にして、ころはすに歩くようにするためです。」

竹島地区 八〇代女性

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---------------------|---------------------|---------------------|--------------------|--------------------|-------------|--------------------|
| 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 1 旧4/9 | 2 旧4/10 ●上弦 |
| 3 憲法記念日 旧4/11 | 4 みどりの日 旧4/12 | 5 こどもの日 旧4/13 | 6 振替休日 旧4/14 | 7 旧4/15 ○満月 | 8 旧4/16 | 9 旧4/17 |
| 10 旧4/18 | 11 旧4/19 | 12 旧4/20 | 13 旧4/21 | 14 旧4/22 ●下弦 | 15 旧4/23 | 16 旧4/24 |
| 17 旧4/25 | 18 旧4/26 | 19 旧4/27 | 20 旧4/28 | 21 旧4/29 | 22 旧4/30 | 23 旧閏4/1 ●新月 |
| 24 旧閏4/2 | 25 旧閏4/3 | 26 旧閏4/4 | 27 旧閏4/5 | 28 旧閏4/6 | 29 旧閏4/7 | 30 旧閏4/8 ●上弦 |
| 31 旧閏4/9 | | | | | | |



6



片泊地区六〇代女性
「人がいた頃は、女性は一家に一人は参加して掃除も年に何度かしていました。今は人が少なくて伝統が途絶えなにか心配になります。」

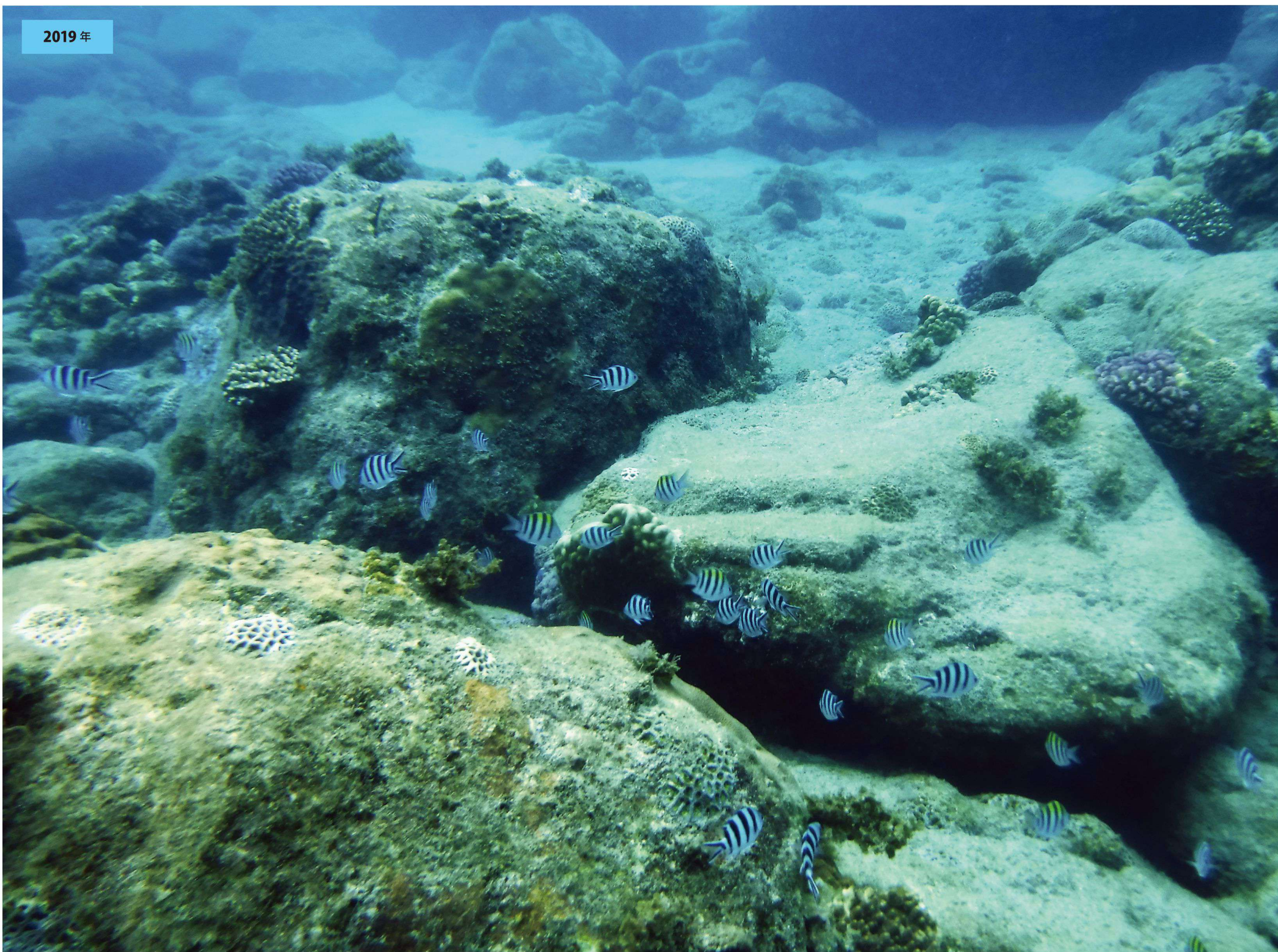
思い出話

墓は男子禁制で旧暦六月二三日に女性のみで掃除する。若者は墓石近くを担当。その間に竹で小さな祭壇をつくる。きまりによって掃除の前で墓内のものが位置を変えることはない。古い写真で石の位置や祭壇の形がそのままなことがわかる。準備が済むと婦人会長が米と塩を供える。その後、五穀豊稔と健康安全を祈願して墓を中心に輪になって盆踊りを奉納する。

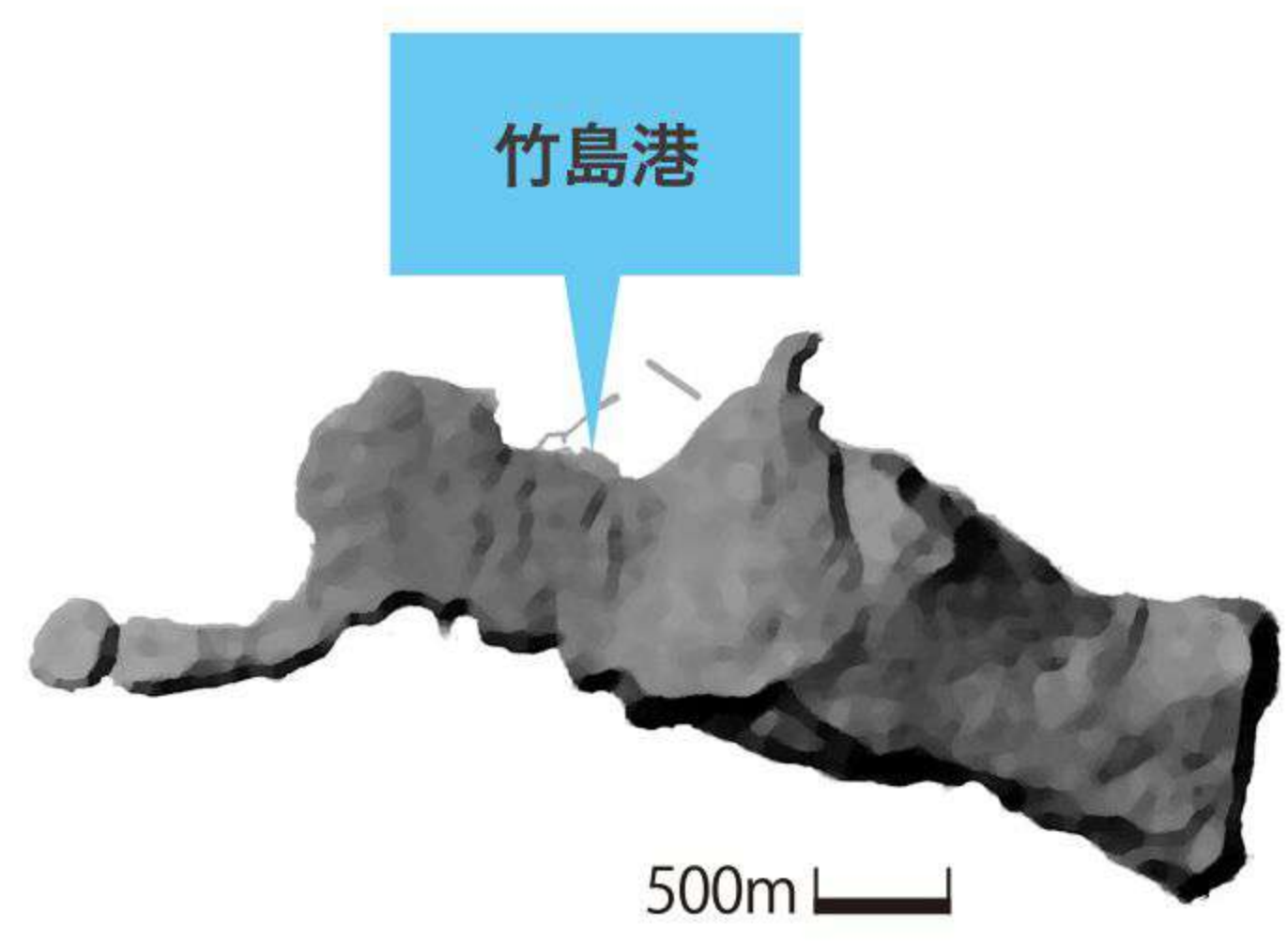
イバドンの墓
片泊集落から道を南東に約4km行くとある鎌倉期の墓。一八五五年壇ノ浦の戦で平家は滅亡し、朝廷は源頼朝の全国統治を容認。鎌倉時代が始まる。一八八八年、黒島へ平家の落人狩りにきた源氏方の豪族の一人『宇都宮家政』通称『大庭三郎家政（おおばさぶろういえまさ）』はこの地で平家の姫を妻にして留まり生涯を閉じた。この墓は大庭三郎家政のものでされる。

片泊

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 31 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 満月 |
| | 旧閏 4/10 | 旧閏 4/11 | 旧閏 4/12 | 旧閏 4/13 | 旧閏 4/14 | 旧閏 4/15 |
| 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 下弦 |
| 旧閏 4/16 | 旧閏 4/17 | 旧閏 4/18 | 旧閏 4/19 | 旧閏 4/20 | 旧閏 4/21 | 旧閏 4/22 |
| 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| 旧閏 4/23 | 旧閏 4/24 | 旧閏 4/25 | 旧閏 4/26 | 旧閏 4/27 | 旧閏 4/28 | 旧閏 4/29 |
| 21 新月 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
| 旧 5/1 | 旧 5/2 | 旧 5/3 | 旧 5/4 | 旧 5/5 | 旧 5/6 | 旧 5/7 |
| 28 上弦 | 29 | 30 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 旧 5/8 | 旧 5/9 | 旧 5/10 | | | | |



7



竹島地区六〇代 女性

「ビンゲはたくさん釣れますが、小魚なのでさばくのが大変です。刺身や素揚げにするとおいしいのですが、小骨が多いので人にあげるときに気をつかいます。あげてがっかりされるとかなしいですから。」

思い出話

「ビンゲはたくさん釣れますが、小魚なのでさばくのが大変です。刺身や素揚げにするとおいしいのですが、小骨が多いので人にあげるときに気をつかいます。あげてがっかりされるとかなしいですから。」

竹島の海は透んで魚も豊富なため、人々は昔からこれを生活の糧としている。【写真左】は竹島の岸から一〇〇mほどの海中。オヤビッチャ（ビンゲ）の群れが確認できる。この魚は夏に堤防で釣れる。港では他にメジナ（クロダイ）・イセエビ・ムロアジ・カンパチ・ツムブリ・アオリイカも獲れ、住民の食卓を潤す。港周辺の海底は、岸から二〜三〇〇m、水深十五m辺りまで大きい岩塊が堆積し、サンゴの群落がみられるという。岩石群の沖側にはニザダイ（サンノジ）やチヨウウチヨウウオ。さらに沖は砂質の海底になって大小の岩が散在し、キビナゴ・シマアジ・フエキダイ・ヒラス・インダイ・コロダイ・フダイなどが確認されている。

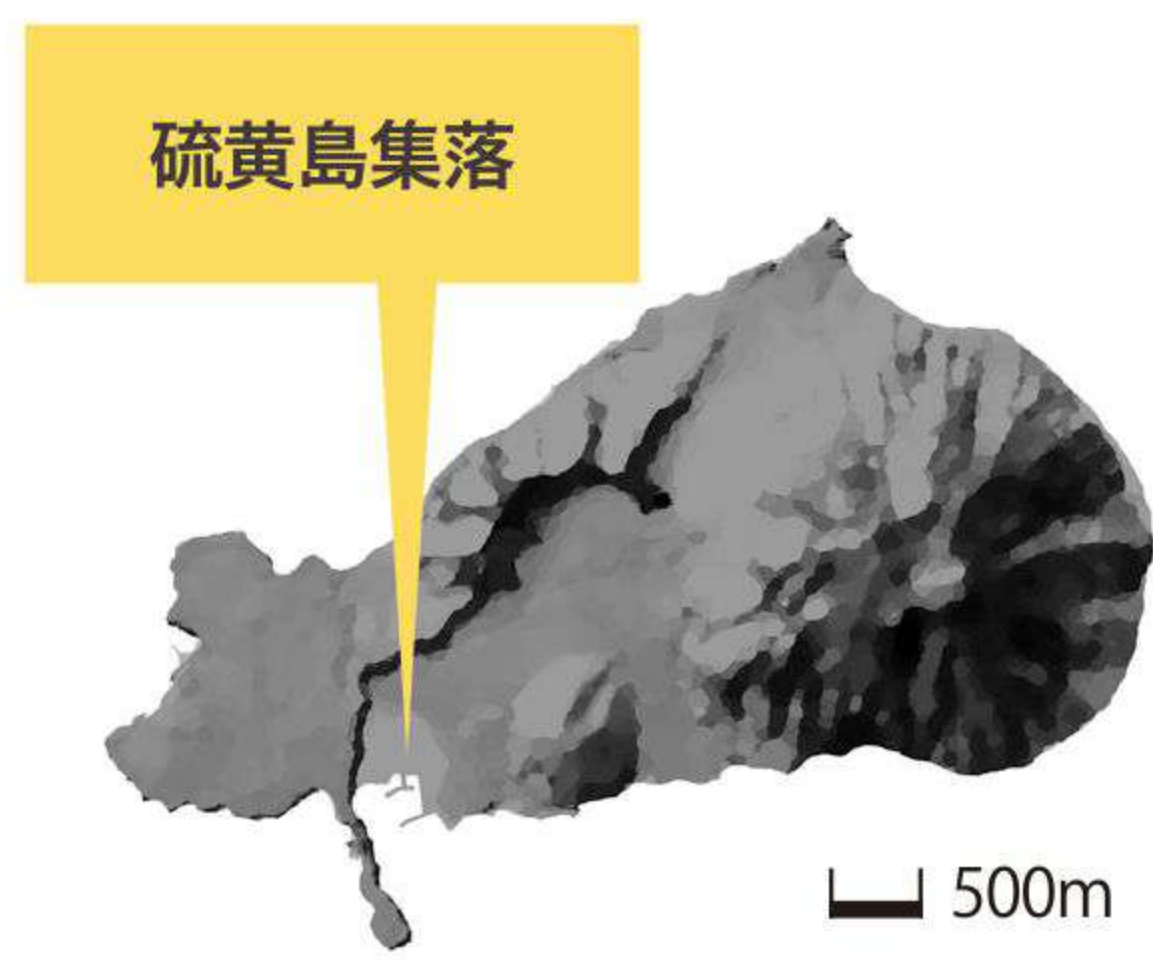
竹島

竹島港の生態

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|--------|--------|--------|--------|--------------|-----------------|--------|
| 28 | 29 | 30 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| | | | 旧 5/11 | 旧 5/12 | 旧 5/13 | 旧 5/14 |
| 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
| 旧 5/15 | 旧 5/16 | 旧 5/17 | 旧 5/18 | 旧 5/19 | 旧 5/20 | 旧 5/21 |
| 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 |
| 旧 5/22 | 旧 5/23 | 旧 5/24 | 旧 5/25 | 旧 5/26 | 旧 5/27 | 旧 5/28 |
| 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |
| 旧 5/29 | 旧 5/30 | 旧 6/1 | 旧 6/2 | 旧 6/3 海の日 | 旧 6/4 スポーツの日 | 旧 6/5 |
| 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 1 |
| 旧 6/6 | 旧 6/7 | 旧 6/8 | 旧 6/9 | 旧 6/10 | 旧 6/11 | |



8



硫黄島地区四〇代男性
「唄の速さは踊りにあわせませす。実はこれが難しく苦勞してます。踊りも鉦打ちも教える人で間や仕草が違ったり、型があるように所々に遊びがあつて面白いです。」

思い出話

村誌によれば奉納箇所や唄い手踊り手の数は減ったが、服装や踊り方は概ね同じようだ。現在は花笠をして鉦(かね)を打つ唄い手が一人。太鼓と矢旗を身につけた踊り子が一〇人ほどで奉納する。一日目、踊り手は潮水で身を清めて庄屋跡に集合する。まず庭で踊つて、鉦を先頭に鳥居前へ移り踊りを奉納する。二日目は同様に奉納した後、鉦を先頭に一列で太鼓を打ちつつ集落を巡り、海岸に出て「タタキ出し」をする。なお、祭りに登場するメニューは表紙で紹介した通り。

硫黄島

八朔太鼓踊り

一五九八年、豊臣秀吉の朝鮮出兵にて、硫黄島の兵が藩主島津義弘を敵の包囲から救い武勲をたてた。その凱旋祝いとして八朔踊りが始まったとされる。「八朔」とは八月朔日のこと。朔日は陰暦で月の第一日。つまり旧暦八月一日を意味する。踊りは旧暦八月一日と二日に行う。

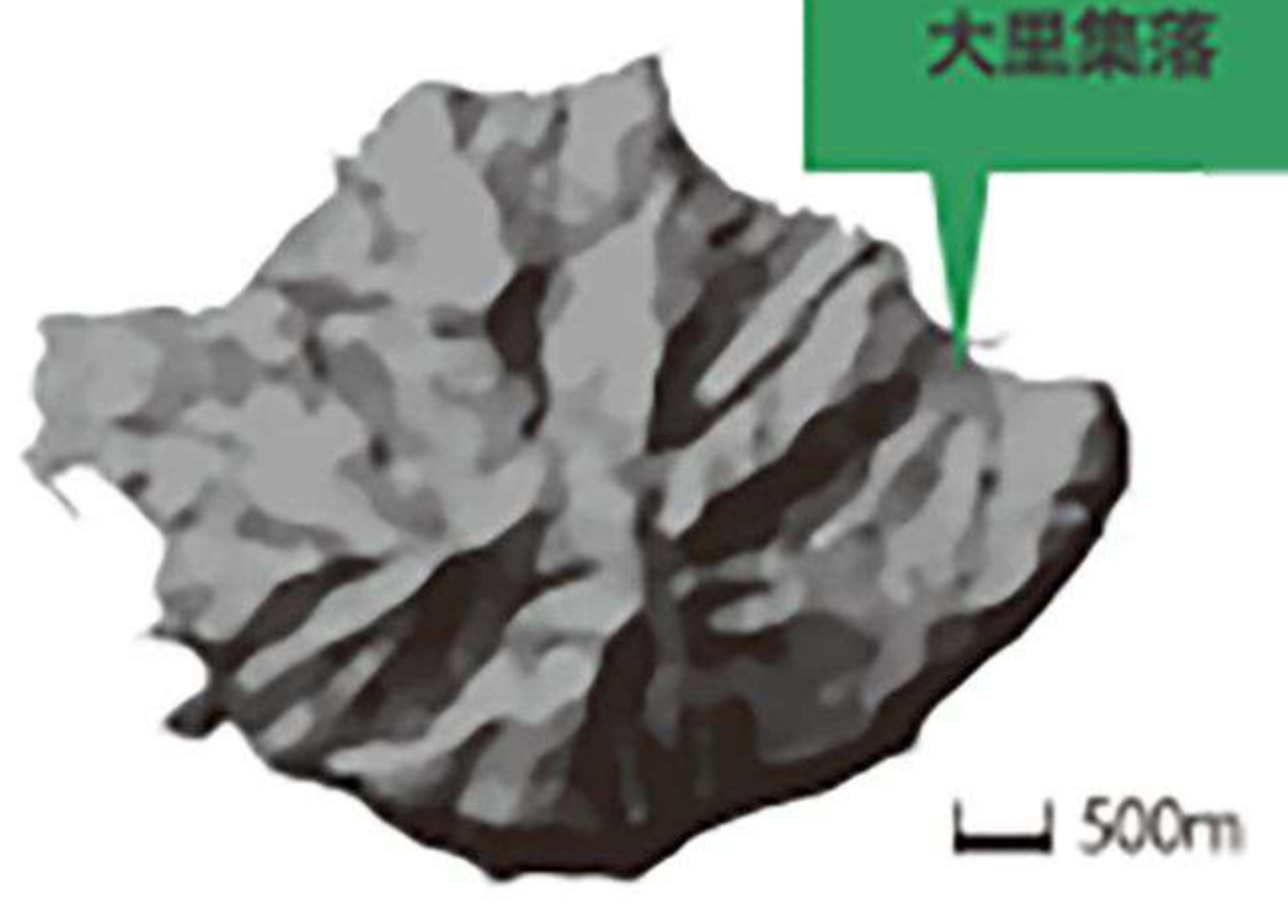
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|-------------------------------|-----------------------------------|---------------------------------|----------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 1 <small>○</small> 旧 6/12 |
| 2 <small>○</small> 旧 6/13 | 3 <small>○</small> 旧 6/14 | 4 <small>○</small> 満月 旧 6/15 | 5 <small>○</small> 旧 6/16 | 6 <small>○</small> 旧 6/17 | 7 <small>○</small> 旧 6/18 | 8 <small>○</small> 旧 6/19 |
| 9 <small>○</small> 旧 6/20 | 10 <small>○</small> 山の日 旧 6/21 | 11 <small>○</small> 旧 6/22 | 12 <small>○</small> 下弦 旧 6/23 | 13 <small>○</small> 旧 6/24 | 14 <small>○</small> 旧 6/25 | 15 <small>○</small> 旧 6/26 |
| 16 <small>○</small> 旧 6/27 | 17 <small>○</small> 旧 6/28 | 18 <small>○</small> 旧 6/29 | 19 <small>●</small> 新月 旧 7/1 | 20 <small>●</small> 旧 7/2 | 21 <small>●</small> 旧 7/3 | 22 <small>●</small> 旧 7/4 |
| 23 <small>●</small> 旧 7/5 | 24 <small>●</small> 旧 7/6 | 25 <small>●</small> 旧 7/7 | 26 <small>●</small> 上弦 旧 7/8 | 27 <small>●</small> 旧 7/9 | 28 <small>○</small> 旧 7/10 | 29 <small>○</small> 旧 7/11 |
| 30 <small>○</small> 旧 7/12 | 31 <small>○</small> 旧 7/13 | 旧 7/7 | 旧 7/8 | 旧 7/9 | 旧 7/10 | 旧 7/11 |



2019年

1982年

9



大里集落

大里地区六〇代男性

「大里では学校で面踊りを学ぶので、こゝ出身の若者はみな面踊りができます。今年の面踊りは初めて若い女性が参加しましたが誰も見つけられませんでした。今ままでまい種が実ったように嬉しく思います。」

思い出話

大里生活センター(昔は青年会長宅)で支度が済むと聞のなかを「ひょうひょう」と声をあげて太夫宅の庭へ行く。踊り手は並んだり輪になって踊る。唄は唄い手が脇で唄う。踊りの仕草や唄の掛け声はひょうきんで愛嬌がある。踊りが済むと再びセンターに戻って酒盛をする。かつては踊り終えると観客を追いかけてシャモジとすりこぎでなでたりして厄払いした。

大里では旧暦八月二日に八朔踊りをしてきた。面踊りは五種類ある八朔踊りのひとつ。今は九月一日に奉納する。踊り手は籠や粘土で作った面にぼろを身にまとう。ぼろにはピロウの葉やシユロの皮、ガジュマルの気根など大里に自生する植物を使う。腰にひょうたんを下げて手に大きなシャモジとすりこぎを持つが、これは子孫繁栄を願う装いとなる。

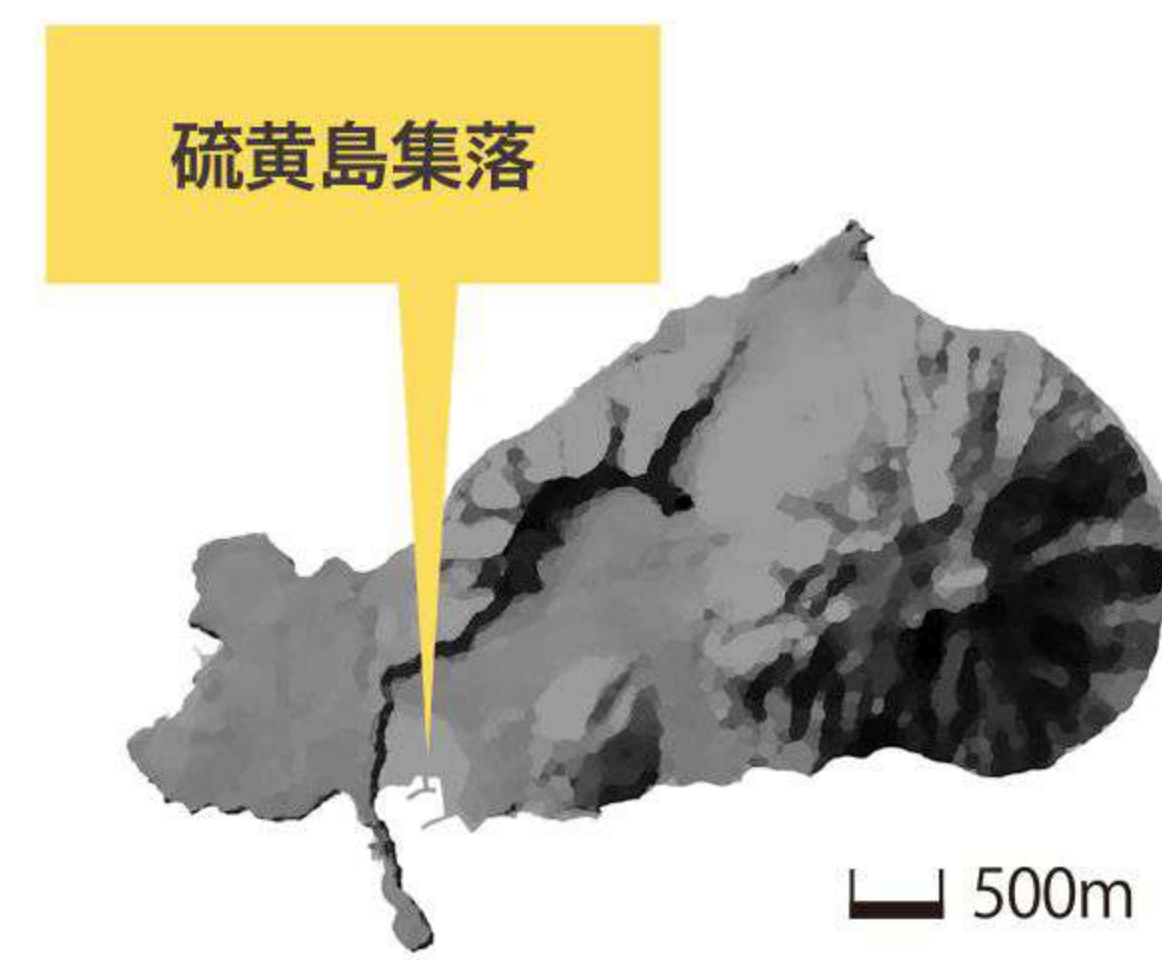
面踊り

大里

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---------------------|--------------------------|--------------------------|-----------------------|------------------------|---------------------|---------------------|
| 30 | 31 | 1 <small>○</small> | 2 <small>○ 満月</small> | 3 <small>○</small> | 4 <small>○</small> | 5 <small>○</small> |
| 旧 7/14 | 旧 7/15 | 旧 7/16 | 旧 7/17 | 旧 7/18 | 旧 7/19 | 旧 7/20 |
| 6 <small>○</small> | 7 <small>○</small> | 8 <small>○</small> | 9 <small>○</small> | 10 <small>● 下弦</small> | 11 <small>●</small> | 12 <small>●</small> |
| 旧 7/21 | 旧 7/22 | 旧 7/23 | 旧 7/24 | 旧 7/25 | 旧 7/26 | 旧 7/27 |
| 13 <small>●</small> | 14 <small>●</small> | 15 <small>●</small> | 16 <small>●</small> | 17 <small>● 新月</small> | 18 <small>●</small> | 19 <small>●</small> |
| 旧 7/28 | 旧 7/29 | 旧 8/1 | 旧 8/2 | 旧 8/3 | 旧 8/4 | 旧 8/5 |
| 20 <small>●</small> | 21 <small>● 敬老の日</small> | 22 <small>● 秋分の日</small> | 23 <small>●</small> | 24 <small>● 上弦</small> | 25 <small>●</small> | 26 <small>●</small> |
| 旧 8/6 | 旧 8/7 | 旧 8/8 | 旧 8/9 | 旧 8/10 | 旧 8/11 | 旧 8/12 |
| 27 <small>○</small> | 28 <small>○</small> | 29 <small>○</small> | 30 <small>○</small> | 1 | 2 | 3 |
| 旧 8/13 | 旧 8/14 | | | | | |



10



硫黄島地区四〇代女性

「祭りの仕方を個人で継いでいた太夫がいなくなつて、様々な人の助けで祭りが引き継がれました。いま祭りは団体が継ぐ方がよいのかもしれない。」

思い出話

踊りは踊り手一〇人程と、そこから二人づつ宮島（みやがらす）役と疱瘡踊り役が選ばれる。神の遣い宮島は、硫黄島の疱瘡踊りだけの踊り手。鳥役は鳥の頭に似た飾りを頭につける。一日目の踊りはお伊勢参りの道中を、二日目は宮島の案内でお宮に参る様子を表す。両日で歌も踊りも違つて種類が多い。二列で唄いながら踊るが、前後向きを変えたり、時に輪になる。紙垂（しで）は太夫が作ったが、いまは婦人会で作る。婦人会は踊りの道具の飾りつけもする。

硫黄島

九月踊り

旧暦九月二〇日と二十一日に女性が熊野神社に奉納する疱瘡除けの踊り。一八世紀に島で疫病が流行。太夫家の長濱吉繁がお伊勢様に病気の鎮化を願つたところ鎮まつたのでお礼参りに行き、帰りに大阪で曲を作つてもらい覚えて島に伝えた。疱瘡踊りは鹿児島だけの芸能で、硫黄島がその南限となる。

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------|
| 27 | 28 | 29 | 30 | 1 <small>○</small> 旧 8/15 | 2 <small>○</small> 満月 旧 8/16 | 3 <small>○</small> 旧 8/17 |
| 4 <small>○</small> 旧 8/18 | 5 <small>○</small> 旧 8/19 | 6 <small>○</small> 旧 8/20 | 7 <small>○</small> 旧 8/21 | 8 <small>○</small> 旧 8/22 | 9 <small>○</small> 旧 8/23 | 10 <small>●</small> 下弦 旧 8/24 |
| 11 <small>●</small> 旧 8/25 | 12 <small>●</small> 旧 8/26 | 13 <small>●</small> 旧 8/27 | 14 <small>●</small> 旧 8/28 | 15 <small>●</small> 旧 8/29 | 16 <small>●</small> 旧 8/30 | 17 <small>●</small> 新月 旧 9/1 |
| 18 <small>●</small> 旧 9/2 | 19 <small>●</small> 旧 9/3 | 20 <small>●</small> 旧 9/4 | 21 <small>●</small> 旧 9/5 | 22 <small>●</small> 旧 9/6 | 23 <small>●</small> 上弦 旧 9/7 | 24 <small>○</small> 旧 9/8 |
| 25 <small>○</small> 旧 9/9 | 26 <small>○</small> 旧 9/10 | 27 <small>○</small> 旧 9/11 | 28 <small>○</small> 旧 9/12 | 29 <small>○</small> 旧 9/13 | 30 <small>○</small> 旧 9/14 | 31 <small>○</small> 満月 旧 9/15 |



片泊

菅尾大明神社

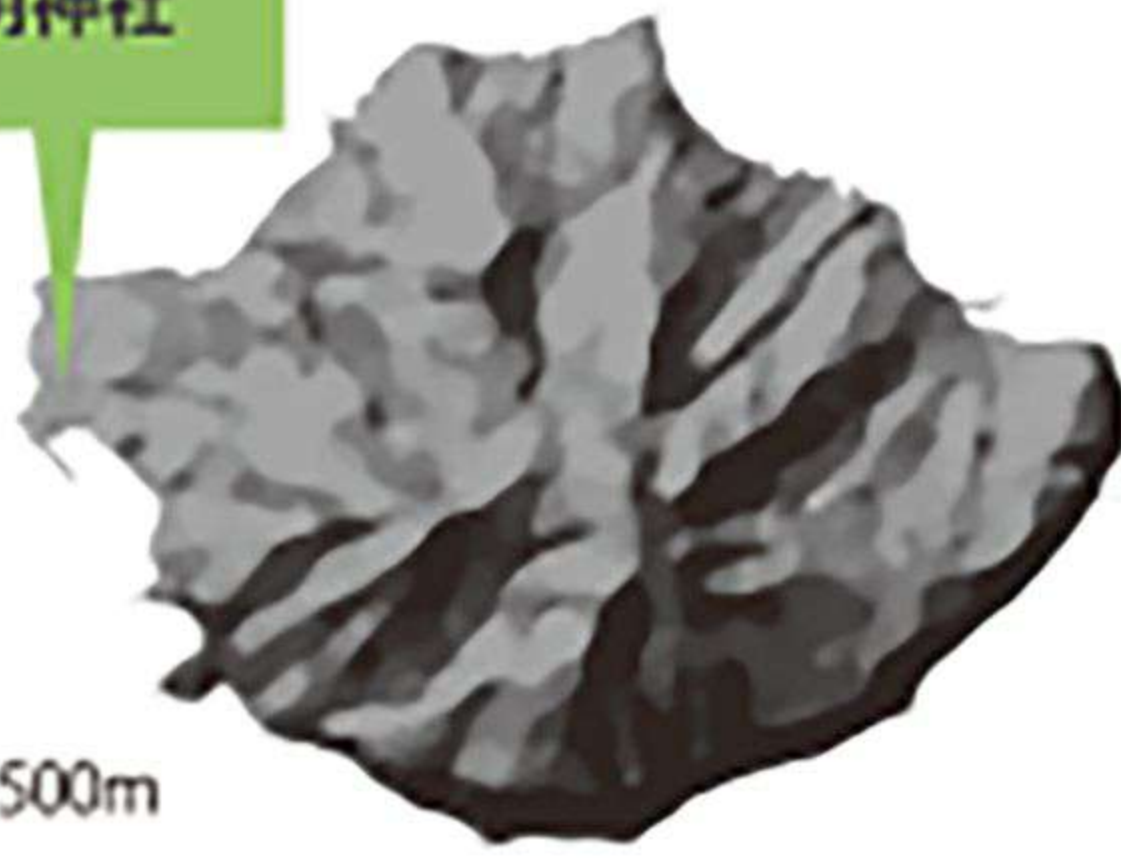
菅尾大明神社には枝ぶりのよいアコウの巨木がある。本殿の脇には「ジの神」という祖先や農耕の神である「屋敷神」に近い神が祀られている。境内にはエビス様や八幡社、スサノオ社もある。

この神社は大里の太夫が祀っており、祭りは大里と同じ二月、九月、十一月に大里より一日遅れで行われていた。いまは九月祭のみ。住民は祭りの前日に掃除をし、当日朝に神具をつくる。祭りの開始は太鼓役が知らせ、その後太夫らが本殿で儀式をする。終わると、九月祭りでは御供えした酒と、お頭つきの魚の切身が参拝者に振る舞われる。参拝者はしばしくつろいで各々家に帰る。

思い出話

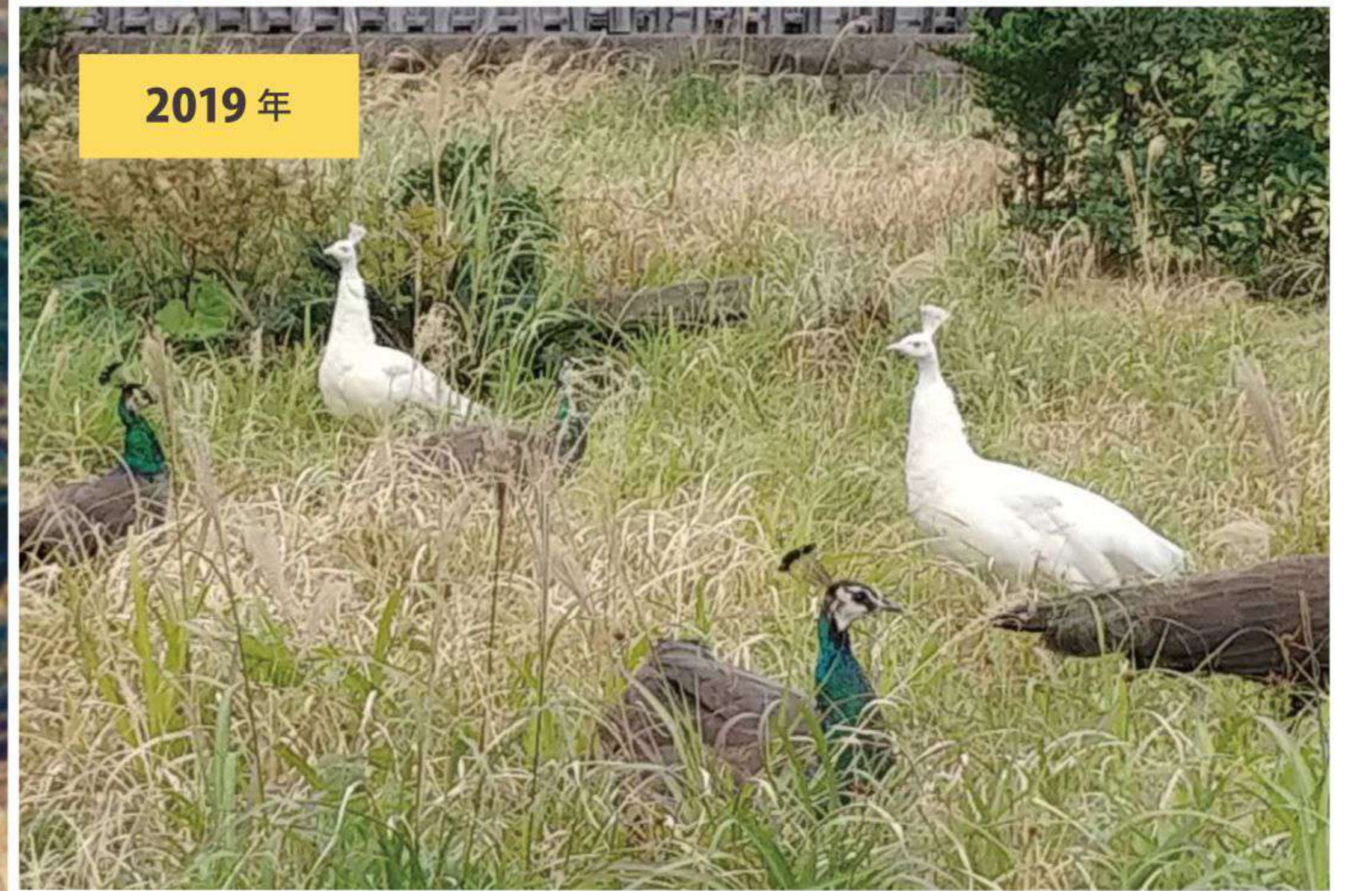
「祭りには山で本神を調達します。きつい仕事なのに若い頃は木を間違えては古老にやり直しを命じられていました。本神の芽は鉤爪の形です。この目印を知っておいて下さい。」
片泊地区 六〇代 男性

菅尾大明神社

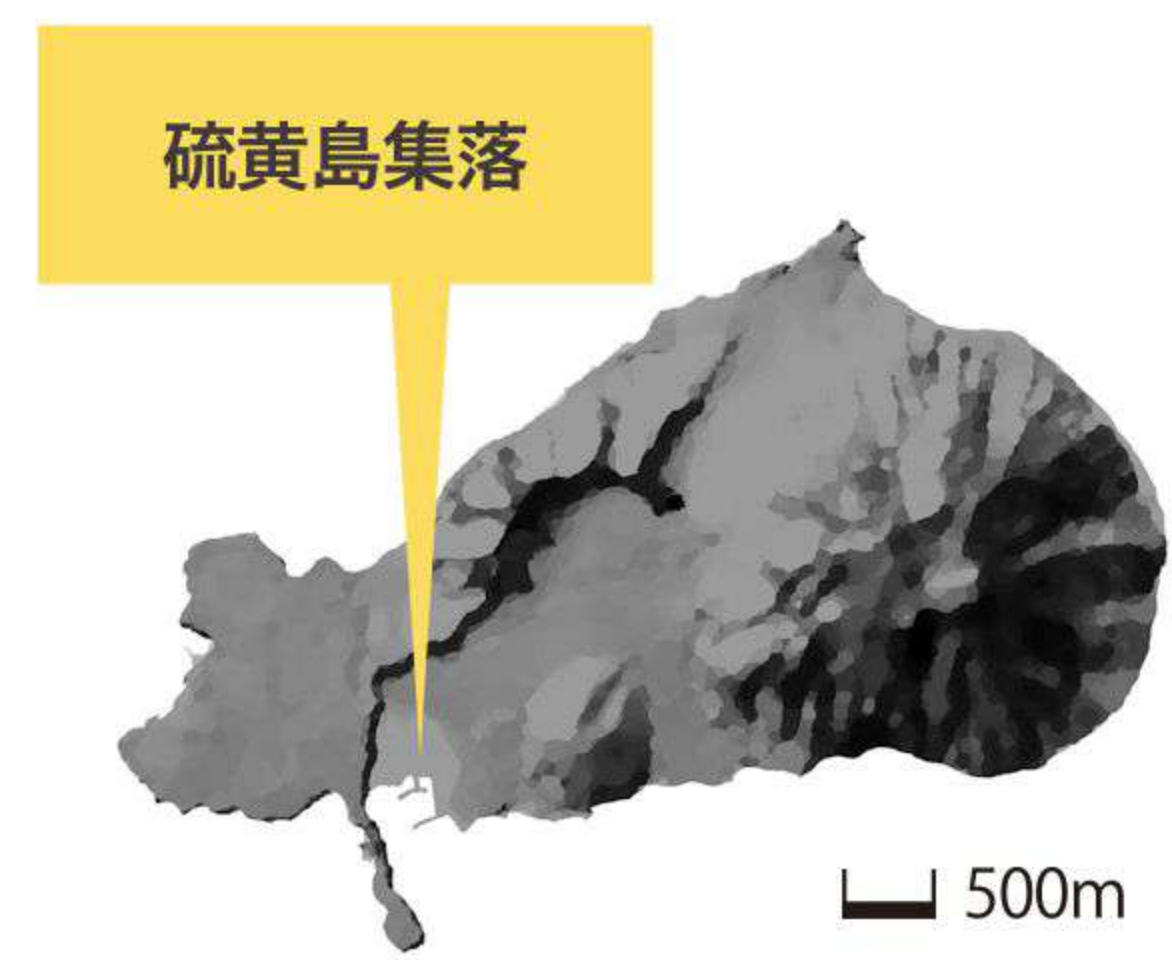


11

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|-----------------------------|-------------------------------|----------------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| 1 旧 9/16 | 2 旧 9/17 | 3 文化の日 旧 9/18 | 4 旧 9/19 | 5 旧 9/20 | 6 旧 9/21 | 7 旧 9/22 |
| 8 旧 9/23 ● 下弦 | 9 旧 9/24 | 10 旧 9/25 | 11 旧 9/26 | 12 旧 9/27 | 13 旧 9/28 | 14 旧 9/29 |
| 15 旧 10/1 ● 新月 | 16 旧 10/2 | 17 旧 10/3 | 18 旧 10/4 | 19 旧 10/5 | 20 旧 10/6 | 21 旧 10/7 |
| 22 旧 10/8 ● 上弦 | 23 旧 10/9 勤労感謝の日 | 24 旧 10/10 | 25 旧 10/11 | 26 旧 10/12 | 27 旧 10/13 | 28 旧 10/14 |
| 29 旧 10/15 | 30 旧 10/16 ○ 満月 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |



12



硫黄島地区四〇代女性
「ホテルがあった子供の頃に、硫黄岳の麓で孔雀の卵を見つけて、持ち帰って寝る時に布団で温めました。三日温めても孵らず、あきらめて犬にあげてしまいました。」

思い出話

孔雀は、いまま観光客を喜ばせる一方で、集落では作物の芽を食べ、方々で糞をするため、住民とは距離のある共存をしている。【写真右下】は畑の鳥除けに絡まった孔雀。

【*】資料は『月刊浜名湖』と記された刊行物。誌面の一部複製があるのみで資料の詳細は不明。

硫黄島
インド孔雀

硫黄島には野生のインド孔雀が生息する。これらは一九七四年〜八二年まであったホテルで飼われた孔雀の末裔となる。当時の資料【*】には、一〇〇羽が三〇〇羽に繁殖、パンくずで餌付け、白孔雀は二羽のみ、など記されている。現在、孔雀は集落と近隣の樺畑、牧場でよく目撃される。数は約三〇羽、白孔雀も親子で二羽いる。ねぐらは、おもに熊野神社と安徳天皇陵の松や牧場の木。餌は、虫、植物の種子や芽、とかげなど。

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|------------------------------|------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|
| 29 | 30 | 1 ○ 旧 10/17 | 2 ○ 旧 10/18 | 3 ○ 旧 10/19 | 4 ○ 旧 10/20 | 5 ○ 旧 10/21 |
| 6 ● 旧 10/22 | 7 ● 旧 10/23 | 8 ● 下弦 旧 10/24 | 9 ● 旧 10/25 | 10 ● 旧 10/26 | 11 ● 旧 10/27 | 12 ● 旧 10/28 |
| 13 ● 旧 10/29 | 14 ● 旧 10/30 | 15 ● 新月 旧 11/1 | 16 ● 旧 11/2 | 17 ● 旧 11/3 | 18 ● 旧 11/4 | 19 ● 旧 11/5 |
| 20 ● 旧 11/6 | 21 ● 旧 11/7 | 22 ● 上弦 旧 11/8 | 23 ● 旧 11/9 | 24 ● 旧 11/10 | 25 ● 旧 11/11 | 26 ● 旧 11/12 |
| 27 ○ 旧 11/13 | 28 ○ 旧 11/14 | 29 ○ 旧 11/15 | 30 ○ 満月 旧 11/16 | 31 ○ 旧 11/17 | 1 ○ | 2 ○ |